

第3回環境大学・環境学習円卓会議(要旨) 報告書

【日 付】	平成23年11月15日(火) 19:00~21:25
【場 所】	水俣市役所4階 全員協議会室AB
【出席者】	《委員》 1 環不知火プランニング 吉永 利夫 2 相思社 遠藤 邦夫 3 水俣自然学校 三村 堅一 4 みなまた環境塾 濱田 裕史 5 市民公募 清水 晶夫 6 市民公募 井上 章久 7 環境モデル都市推進課 岩下 一弘 8 " 坂本 愛 《有識者》 ・熊本大学 田中 昭雄 ・崇城大学 永松 俊雄 《オブザーバー》 ・国立水俣病総合研究センター 佐藤 克子 ・環境省 富田 茉莉 《事務局》 ・水俣市企画課 川野・一期崎・坂本・竹下 ・三菱総研 福田・多田
【資料】	①水俣連携大学院構想(素案)・・・資料1 ②大学・学部等の誘致方策の事例・・・資料2 ③水俣訪問実績のある大学関係者リスト
【内 容】	1 これまでの経過(熊本大学、熊本学園大学にて説明) 川野課長説明 ① 熊本大学 ・大学院を出て、社会のどのような所に輩出するのか。 ・どうやって学生を集めるのか。 ・水俣にスタッフを置いて実施するには、具体的な内容がほしい。 ・水俣市出身、在住または水俣を研究テーマにしている研究者に当たってみることも大切。 ・リサーチパークはイメージできる。 → 市としては、今回、連携大学院で検討していく。 ② 熊本学園大学 ・どういう学生を集めるのか。 ・学長交代後、水俣学現地研究センターの活動が厳しくなっている。将来的にできるか、今は話すことができない。 ・地元の高校生や先生がどのように考えているのか。 ・水俣に戻ってくる社会人も入学は可能なのか。 ・連携大学院は4, 5年くらいかかるだろうから、若手の研究者にアプローチを。

→ 地方の私立は定員割れ。受験生は微減。九州にこだわらずとも水俣に来たい大学はウェルカム。

2 水俣連携大学院構想(素案)について

川野課長説明

3 大学・学部等の誘致方策の事例

三菱総研・福田説明

■ 大学に対する営業方法

このままの資料では、使えない。

大学側から見てどのような情報を入れると魅力を感じるのかが必要。

この資料に欠けている情報・魅力は何なのか、各分野の先生に聞いて、水俣に揃えられるものは何なのか。その分野を詳しく検討する。

「このような分野であれば地方でも成り立つ」という、大学側の需要を考える必要がある。

多くの先生に「難しい」と言われるのは覚悟し、懐に入れられる情報を持って帰る。

具体的にどんな先生が関心を持っているのか（熊大）。

→ リストアップした人材で、突破口とする。

「失敗と再生」「水俣の環境まちづくり」情報、経験、知識」「各種の新しい取り組み」「情報発信・プレゼンス向上」これらを具体的に回答できなければならない。

- ・「失敗と再生」 → メチル水銀を流した、その事実と向き合う決心をした。(環境モデル都市の取り組みなど)
- ・「水俣の環境まちづくり」 → 「知見」としては、まとまっていない。「体感」として経験しているものを言語化して他の地域に使えるものとしたい。
- ・「各種の新しい取り組み」 → 他の円卓会議で具体的に取り組んでいるプロジェクト。
- ・「情報発信・プレゼンス向上」 → 「水俣」と冠することにより、プレゼンスの向上につながるのではないかと。
これまでの水俣のイメージでは無く、被害を克服したという水俣のイメージをプレゼンスする、という書き方もある。

■ 大学誘致事例について

深谷市や都城市の財政支援は、水俣で例えると 3 億～5 億程度に相当する。

深谷市 (H20)歳出決算：427 億円

都城市(H21)歳出決算：709 億円（おそらく都城市は合併特例債等がある）

※参考：水俣市：約 140 億円

東都医療大学は看護福祉系をつくりたい法人とたまたまマッチングできた

■ その他

- ・「A大学院（コア大学）」は水俣に存在すべきだと思うが、どのように声がけするのか説明が難しい。コア大学が水俣に来なければならない理由が必要。今の大学立地で同じことができるなら、今の場所で連携大学院をやるだろう。
- ・財源の質問は熊大からは特になかった。連携大学院そのもののイメージができない。
- ・環境系の大学は多いが、大学院は少ない。
- ・水俣連携大学院構想、一般的大学は難しく、共同大学院でやっていくという方向に対して反対意見は聞かない。
- ・候補地については、既存の施設(例：テクノセンターなど)も候補として考えたうえで検討した結果なのか経緯も出して欲しい。
→ひとつの例として出している。どの程度の規模の施設が必要なのか分かった時点で精査する必要がある。
- ・他の円卓会議を使うという観点から、他の円卓会議の議事録を共有化して欲しい。